



令和8年度

山梨県教育課程実施状況調査の 結果概要

令和8年8月3日
山梨県教育委員会

令和8年度山梨県教育課程実施状況調査の結果概要

山梨県総合教育センター

1 調査の目的

小学校及び中学校における学習指導要領に基づく教育課程の実施状況について、学習指導要領における各教科の目標や内容に照らした学習の実現状況を調査することで、指導上の課題を明らかにして、今後の学校における学習指導の改善に資する。

2 調査の実施について

対象学年	校数	児童 生徒数	教科	出題範囲
小学校第6学年 義務教育学校 前期課程第6学年	17校	607人	社会	小学校第5学年の学習内容から出題
		606人	理科	
中学校第3学年 義務教育学校 後期課程第3学年	8校	577人	社会	中学校第2学年の学習内容から出題
		578人	理科	

※当該学年において、県内児童生徒数の約1割になるよう、地域や学校規模等を考慮して抽出

※調査は、1人1台端末を用いたオンライン方式で実施

3 調査日時

区分	小学校	中学校
実施期間	令和8年5月18日(月)から5月29日(金)までの期間に、学校ごと実施	
調査教科 (実施時間)	社会・理科(40分)	社会・理科(各45分)

4 各教科の主な結果

校種・学年・教科	設問数 (問)	県平均正答率 (%)	推定全国値 (%)	全国との差 (ポイント)
小・6・社会	35	55.8	58.6	-2.8
小・6・理科	32	62.4	69.6	-7.2
中・3・社会	34	53.1	57.7	-4.6
中・3・理科	34	52.5	58.5	-6.0

※推定全国値とは、事前の調査による様々な指標値の結果を基に推定した正答率を示しています。

5 調査結果の分析を踏まえた取組

① 結果分析・公表

- ・本資料を山梨県総合教育センターHPに掲載する。（8月3日掲載）
- ・学力向上フォーラム 2026（8月21日実施）
各種学力調査の結果に基づき、本県における成果と課題を共有する。
- ・授業の改善・充実に向けた説明会Ⅱ（8月26日実施）
小中学校の教諭等を対象に、双方向のやり取りを取り入れた参加型の学習会を実施（一部教科はオンデマンド配信）し、説明会後には説明部分を収録した映像の配信を行う。

② 研修会・学校訪問

- ・結果の分析を踏まえた研修や学校訪問による指導等を行う。学校訪問の際には、授業観察や研究会での様子に基づき、適切な指導を行う。

③復習教材（デジタルフォローアップドリル）を活用した課題改善

- ・児童生徒は、結果データから明らかになった課題等に合わせた復習教材（デジタルフォローアップドリル）を活用し、課題改善を図る。

④ポータルサイトを活用した日常的な授業改善の促進

- ・日常の授業改善に反映できるよう、課題のある学習内容について「学力調査からの授業デザイン」を作成する。
- ・作成した「学力調査からの授業デザイン」を「ポータルサイト」に掲載することにより、授業を行う教諭への情報提供を推進し、授業改善を図る。

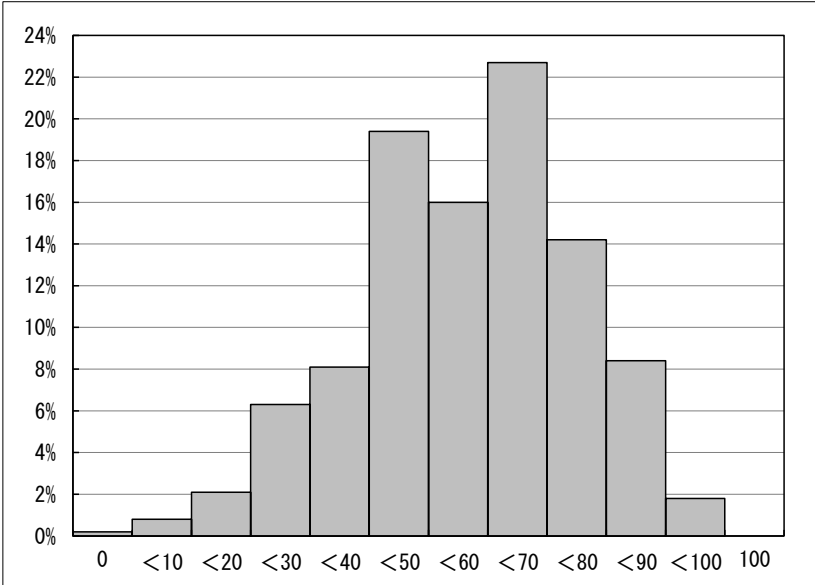
令和8年度教育課程実施状況調査の結果分析 小学校第6学年・社会

実施生徒数（人）	設問数（問）	県平均正答率（％）	推定全国値（％）	全国との差（ポイント）
607	35	55.8	58.6	-2.8

※推定全国値とは、事前の調査による様々な指標値の結果を基に推定した正答率を示しています。

		県平均正答率（％）	推定全国値（％）	全国との差（ポイント）
領域	国土の自然などの様子	35.9	44.6	-8.7
	農業や水産業	55.2	59.4	-4.2
	工業生産	59.4	60.5	-1.1
	産業と情報との関わり	78.5	75.6	2.9
	国土の自然環境と国民生活	55.3	54.4	0.9
観点	知識・技能	56.4	60.4	-4.0
	思考・判断・表現	54.6	55.5	-0.9
解答形式	選択式	62.9	64.0	-1.1
	短答式	45.7	52.4	-6.7
	記述式	30.6	37.3	-6.7

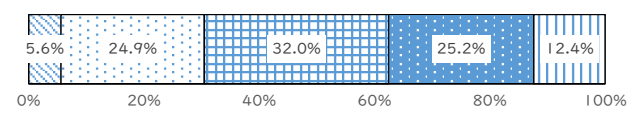
正答率分布グラフ（横軸：正答数 縦軸：割合）



正答率集計値

正答率(%)	生徒数(人)	割合(%)
100	0	0.0
<100	11	1.8
< 90	51	8.4
< 80	86	14.2
< 70	138	22.7
< 60	97	16.0
< 50	118	19.4
< 40	49	8.1
< 30	38	6.3
< 20	13	2.1
< 10	5	0.8
0	1	0.2
計	607	100

レベル別人数比のグラフ



レベル別人数比（実施生徒数に対する割合）

	1	2	3	4	5
社会	5.6%	24.9%	32.0%	25.2%	12.4%

※ 教科ごとの結果に応じてレベル1～レベル5に該当する生徒の人数割合を表しています。

設問別正答率									問題の内容	出題のねらい	県平均正答率 (%)	推定全国値 (%)	(ポイント) 全国との差
通し番号	解答形式	観点		領域									
		知	思	国土	農水	工業	情報	環境					
1	選択	○		○					世界の中の国土	48.3	58.2	-9.9	
2	選択	○		○						28.8	39.2	-10.4	
3	選択	○		○						70.3	76.0	-5.7	

4	選択	○		○					日本の国土と人々の暮らし	日本の国土の地形について理解している。	23.9	38.5	-14.6
5	記述		○	○						資料に着目して、日本海側の気候で冬に降水量が多い理由を捉え、表現している。	15.0	23.9	-8.9
6	短答	○		○						北方領土について理解している。	29.0	31.6	-2.6
7	選択	○			○				日本の農業	米の作付面積について、資料を読み取っている。	88.1	83.9	4.2
8	短答		○		○					資料に着目して、農作業の変化を捉え、表現している。	67.1	70.3	-3.2
9	短答	○			○					品種改良について理解している。	46.0	57.8	-11.8
10	選択	○			○					米づくりに適した環境について理解している。	82.0	74.1	7.9
11	選択	○			○				日本の水産業	日本周辺の海流を理解している。	36.7	45.0	-8.3
12	記述		○		○					資料に着目して、日本周辺がよい漁場である理由を捉え、表現している。	36.7	49.7	-13.0
13	選択	○			○					日本の漁業別生産量の変化の資料を読み取っている。	21.4	49.3	-27.9
14	選択	○			○				日本の食料生産	食料自給率のグラフを読み取っている。	81.2	78.0	3.2
15	選択		○		○					日本の食料輸入の問題点について捉え、判断している。	54.5	45.5	9.0
16	選択	○			○					地産地消の取り組みについて理解している。	70.3	66.4	3.9
17	短答	○				○			自動車をつくる工業	自動車の製作工程におけるプレスを理解している。	27.0	48.6	-21.6
18	選択		○			○				自動車の製作工程においてロボットによって仕事を行う理由について捉え、判断している。	81.7	66.2	15.5
19	選択		○			○				自動車に使われる部品の多くを関連工場でつくる理由について捉え、判断している。	77.6	78.3	-0.7
20	選択		○			○				消費者の需要に応えた自動車生産について、資料をもとに判断している。	72.3	68.2	4.1
21	短答	○				○				環境に配慮された自動車について理解している。	80.2	73.7	6.5
22	選択	○				○			工業生産と工業地域	日本の工業地帯や工業地域について、資料を読み取っている。	71.0	71.8	-0.8
23	選択	○				○				日本の工業生産について、資料を読み取っている。	73.8	72.1	1.7
24	短答	○				○				太平洋ベルトについて理解している。	28.7	52.0	-23.3
25	選択	○				○			工業生産と貿易	日本の貿易相手国の理解をもとに、資料を読み取っている。	66.6	59.3	7.3
26	選択	○						○	情報を生かした産業	さまざまなメディアの特色について理解している。	87.8	80.0	7.8
27	選択	○						○		インターネットを利用するときに必要なことについて理解している。	80.1	77.2	2.9
28	選択		○					○		資料に着目して、コンビニエンスストアやスーパーマーケットで活用しているポイントカードの情報について捉え、判断している。	59.5	63.2	-3.7
29	選択		○					○		資料に着目して、新聞やテレビで、おわびや訂正記事が出される状況を捉え、判断している。	86.8	81.8	5.0
30	選択	○						○	自然環境と国民生活	世界自然遺産である白神山地の位置の理解をもとに、地図を読み取っている。	58.5	64.4	-5.9
31	短答	○						○		森林の役割と保全の大切さについて理解している。	41.8	32.5	9.3
32	選択		○					○		災害が発生した際の対応について、実際の場面に即して判断している。	65.6	66.4	-0.8
33	記述		○		○				日本の水産業	水産資源の保護に関する資料を読み取って考え、表現している。	55.7	61.2	-5.5
34	記述		○			○			工業生産と貿易	資料に着目して、工業がさかんな地域の特色や背景を捉え、表現している。	15.0	14.4	0.6
35	選択		○		○				日本の農業	資料に着目して、日本の米の生産量と消費量の変化を捉え、判断している。	22.7	31.8	-9.1

◎観点及び領域の表記の意味は下記のとおりです。（次ページも同様）

【観点】知 … 知識・技能 思 … 思考・判断・表現

【領域】国土 … 国土の自然などの様子 農水 … 農業や水産業 工業 … 工業生産

情報 … 産業と情報との関わり 環境 … 国土の自然環境と国民生活

学習指導に当たって

※「レベル別正答率」とは、教科ごとの結果に応じた1～5のレベルに所属する集団ごとの平均正答率を算出したものです。（「レベル別人数比」は、前々ページを参照）

【よくできている設問】

通し 番号	解答 形式	観点		問題の内容	出題のねらい	県平均正 答率(%)	レベル別正答率(%)				
		知	思				1	2	3	4	5
7	選択	○		日本の農業	米の作付面積について、資料を読み取っている。	88.1	50.0	73.5	96.4	95.4	98.7

日本の米作りが、北海道や東北地方で特に盛んであることを地図から読み取れている児童が多く見られた。米作りについての基礎知識が身に付いていることに加え、地図が色分けされている読み取りやすい資料であったことが要因と考えられる。

通し 番号	解答 形式	観点		問題の内容	出題のねらい	県平均正 答率(%)	レベル別正答率(%)				
		知	思				1	2	3	4	5
26	選択	○		情報を生かした産業	さまざまなメディアの特色について理解している。	87.8	32.4	78.1	94.8	94.8	100

4種類のマスメディア（新聞・ラジオ・インターネット・テレビ）の特徴について理解できている児童が多く見られた。日常の生活経験と関連付けられる設問内容であり、選択式であったことが要因と考えられる。

【課題がある設問】

通し 番号	解答 形式	観点		問題の内容	出題のねらい	県平均正 答率(%)	レベル別正答率(%)				
		知	思				1	2	3	4	5
5	記述		○	日本の国土と人々の暮らし	資料に着目して、日本海側の気候で冬に降水量が多い理由を捉え、表現している。	15.0	0.0	2.6	5.7	24.2	52.0

日本の国土の様子と国民生活について、例えば、「日本の地形や気候にはどのような特色があるか」等の問いを設けることが考えられる。個々の児童が、国土の特色を調べ白地図等にまとめたり、国土の自然環境と国民生活の関連を考えたりするなど、調べたことや考えたことを表現する活動を取り入れ、日本の国土の地形や気候の概要について理解を目指すような展開が考えられる。

また、社会的事象について調べまとめる技能を踏まえ、グラフや表の読み取りをした上で、読み取った内容を他の資料（地図や統計等）と関連付けて考えられるように、継続的な指導が大切である。

通し 番号	解答 形式	観点		問題の内容	出題のねらい	県平均正 答率(%)	レベル別正答率(%)				
		知	思				1	2	3	4	5
13	選択	○		日本の水産業	日本の漁業別生産量の変化の資料を読み取っている。	21.4	8.8	11.9	16.5	20.9	60.0

日本の水産業について、例えば、「日本の食料生産にはどのような特色や課題があるか」等の問いを設けることが考えられる。個々の児童が、水産業における生産量の変化等に注目しながら、これまでの水産業について調べ、考えたことを表現することを通して、日本の水産業を含めた食料生産の役割や特色の概要について理解を目指すような展開が考えられる。

食料生産に携わる人々の工夫や努力等を、その土地の自然条件や需要を関連付けて考えるなどして、調べたことを表現するような活動も大切にしたい。また、この設問においても社会的事象について調べまとめる技能の指導が重要となる。

通し 番号	解答 形式	観点		問題の内容	出題のねらい	県平均正 答率(%)	レベル別正答率(%)				
		知	思				1	2	3	4	5
34	記述		○	工業生産と貿易	資料に着目して、工業がさかんな地域の特色や背景を捉え、表現している。	15.0	0.0	2.0	9.3	28.8	34.7

我が国の工業生産の概要について、例えば、「日本の中で工業が盛んな地域はどこか、またそれはなぜか」等の問いを設けることが考えられる。工業の種類や工業が盛んな地域の分布等に注目して調べ、自然条件やその地域で盛んな工業の種類等を関連付けること、また、我が国では様々な工業生産が行われ、工業製品が国民生活の向上に役立っていることなどを文章やレポート等にまとめ、表現するような展開が考えられる。

単に「工業の盛んな地域は海沿いに多い」などの表面的な理解だけでなく、「なぜ海沿いに多いのか」「自然条件以外の条件との関連」等に注目した上で、背景となる事象を関連付けて捉えられるようにしたい。

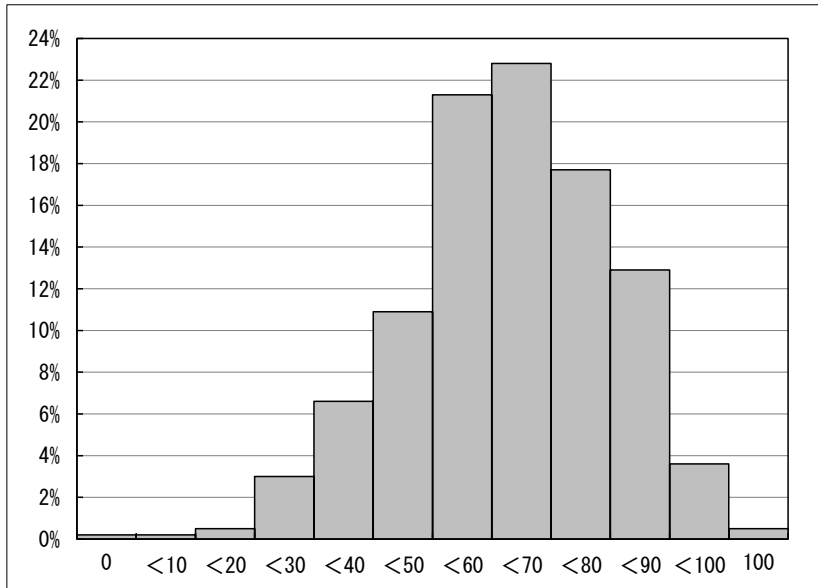
令和8年度教育課程実施状況調査の結果分析 小学校第6学年・理科

実施生徒数（人）	設問数（問）	県平均正答率（％）	推定全国値（％）	全国との差（ポイント）
606	32	62.4	69.6	-7.2

※推定全国値とは、事前の調査による様々な指標値の結果を基に推定した正答率を示しています。

		県平均正答率（％）	推定全国値（％）	全国との差（ポイント）
領域	物質・エネルギー	55.6	56.6	-1.0
	生命・地球	65.1	74.7	-9.6
観点	知識・技能	64.4	71.5	-7.1
	思考・判断・表現	59.8	67.1	-7.3
解答形式	選択式	61.6	68.6	-7.0
	短答式	64.8	80.1	-15.3
	記述式	66.9	56.4	10.5

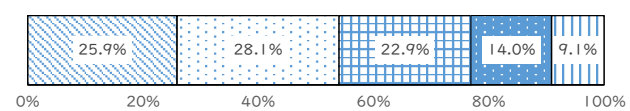
正答率分布グラフ（横軸：正答数 縦軸：割合）



正答率集計値

正答率（％）	生徒数（人）	割合（％）
100	3	0.5
<100	22	3.6
<90	78	12.9
<80	107	17.7
<70	138	22.8
<60	129	21.3
<50	66	10.9
<40	40	6.6
<30	18	3.0
<20	3	0.5
<10	1	0.2
0	1	0.2
計	606	100

レベル別人数比のグラフ



レベル別人数比（実施生徒数に対する割合）

	1	2	3	4	5
理科	25.9%	28.1%	22.9%	14.0%	9.1%

※教科ごとの結果に応じてレベル1～レベル5に該当する生徒の人数割合を表しています。

設問別正答率					問題の内容	出題のねらい	県平均正答率（％）	推定全国値（％）	全国との差（ポイント）
通し番号	解答形式	観点	領域						
		知	思	物工	生地				
1	選択		○		○	天気の変化	90.4	91.1	-0.7
2	選択		○		○		78.1	75.5	2.6
3	選択	○			○		95.0	96.1	-1.1
4	選択	○			○		68.3	78.0	-9.7

5	選択		○	○	植物の発芽と成長	仮説を確かめるための対照実験と結果を構想することができる。	41.3	74.1	-32.8
6	短答	○		○		種子の発芽に必要な養分をでんぷんと呼ぶことを理解している。	57.1	85.2	-28.1
7	選択		○	○		植物の成長に必要な条件をもとに、ミニトマトを育てるのに適切な場所を推測することができる。	32.8	68.8	-36.0
8	短答		○	○	魚のたんじょう	メダカの入った水槽の図から、おすのメダカの数とを推測できる。	70.6	78.1	-7.5
9	選択	○		○		受精について理解している。	90.3	90.0	0.3
10	短答	○		○		メダカのたまごの発生の順序を理解している。	83.5	89.3	-5.8
11	記述		○	○		かえったばかりのメダカは、はらの中の養分を使って育つことを記述できる。	59.6	72.8	-13.2
12	選択	○		○	植物の花のつくりと実	雌花のつばみに袋をかぶせる理由を指摘できる。	62.2	71.3	-9.1
13	選択	○		○		受粉した花のみ実になることを理解している。	80.7	84.5	-3.8
14	短答		○	○		結実するには受粉することが必要であると考えられることができる。	49.3	79.7	-30.4
15	短答	○		○	人のたんじょう	子宮の中の子どもと胎盤をつなぐ部分を、「へそのお」ということを理解している。	63.2	68.2	-5.0
16	選択	○		○		胎盤の場所とはたらきを理解している。	48.3	54.2	-5.9
17	選択	○		○		子どもは、受精してから約38週で産まれることを理解している。	71.6	74.4	-2.8
18	選択	○		○	けんび鏡の使い方	対物レンズはまず倍率の低いものから使うことを指摘できる。	64.5	65.8	-1.3
19	選択	○		○		顕微鏡の正しい使い方を指摘できる。	67.7	70.1	-2.4
20	選択	○		○		顕微鏡の倍率の求め方を身に付けている。	49.5	65.6	-16.1
21	選択		○	○	ふりこのきまり	ふりこの周期についての対照実験の条件を制御できる。	61.2	60.2	1.0
22	選択	○		○		ふりこの振れる幅を変えても周期には影響がないことを理解している。	52.1	52.3	-0.2
23	選択		○	○		ふりこの周期はふりこの長さに依存することを理解し、その値を求めることができる。	50.3	43.7	6.6
24	選択	○		○	物のとけ方	物をとくす前後で全体の重さは変わらないことを理解している。	63.2	84.6	-21.4
25	選択	○		○		水溶液は均一になることを理解している。	27.4	88.5	-61.1
26	選択		○	○		グラフを読み取り、食塩水とミョウバンの水溶液を判断する方法を推測することができる。	53.8	54.5	-0.7
27	選択	○		○	電流のはたらき	電磁石の極の性質について理解している。	41.1	29.7	11.4
28	選択		○	○		電磁石の力を強くする条件を調べる対照実験の誤りを指摘できる。	76.9	55.7	21.2
29	記述	○		○		電流の大きさを大きくすると、電磁石の力が強くなることを理解している。	74.3	39.9	34.4
30	選択		○	○	流れる水のはたらき	川の写真から、川の流れている場所を指摘できる。	37.1	46.6	-9.5
31	選択		○	○		川原の石のようすから、観察された川原の場所を推測できる。	47.2	46.9	0.3
32	選択		○	○		複数の人の考えのうち、正しくないものを指摘できる。	88.4	91.7	-3.3

◎観点及び領域の表記の意味は下記のとおりです。（次ページも同様）

【観点】知 … 知識・技能 思 … 思考・判断・表現

【領域】物エ … 物質・エネルギー 生地 … 生命・地球

学習指導に当たって

※「レベル別正答率」とは、教科ごとの結果に応じた1～5のレベルに所属する集団ごとの平均正答率を算出したものです。（「レベル別人数比」は、前々ページを参照）

【よくできている設問】

通し 番号	解答 形式	観点		問題の内容	出題のねらい	県平均正 答率(%)	レベル別正答率(%)				
		知	思				1	2	3	4	5
3	選択	○		天気の変化	台風が近づいたときの天気の変化を理解している。	95.0	89.8	96.5	97.1	97.6	96.4

台風の接近に伴う「強い風」「大量の雨」という正答率が高かった要因として、近年多発する大型台風の報道や防災教育を通じ、児童が気象災害の危険性を身近に捉えていることが考えられる。また、小学校理科において、映像資料の活用や実際の気象情報の観察を取り入れた、実感を伴う指導などができていると考えられる。

通し 番号	解答 形式	観点		問題の内容	出題のねらい	県平均正 答率(%)	レベル別正答率(%)				
		知	思				1	2	3	4	5
9	選択	○		魚のたんじょう	受精について理解している。	90.3	69.4	94.7	99.3	100.0	98.2

第5学年の「魚の誕生」において、日頃からの生物の観察や飼育、実験を通した丁寧な観察活動が展開され、生命の誕生を実感を伴って捉えられたことが考えられる。また、ICT教材による連続的な映像資料の活用により、受精の瞬間や変化の過程を視覚的に理解できたと考えられる。

【課題がある設問】

通し 番号	解答 形式	観点		問題の内容	出題のねらい	県平均正 答率(%)	レベル別正答率(%)				
		知	思				1	2	3	4	5
7	選択		○	植物の発芽と成長	植物の成長に必要な条件をもとに、ミニトマトを育てるのに適切な場所を推測することができる。	32.8	11.5	18.8	37.4	63.5	78.2

第5学年「植物の発芽、成長、結実」において、「日光の当たり方」などの条件を制御する実験（対照実験）を平面的・抽象的な知識としてのみ捉えていた可能性が考えられる。図から「家の南側」という立体的な空間の条件（日当たりの良さ）を読み解き、既習の条件制御の考え方を実生活の場面へ適用（転移）する思考力が十分に育まれていなかったと考えられる。「科学的に問題解決する思考力・表現力等の育成」に基づき、見通しをもった条件制御の場を設定し、実際に校舎の北側や南側など、日当たりの異なる場所で植物を育てる、あるいはICTを活用して影の動きをシミュレーションする活動を取り入れることにより、単なる「日当たりが必要」という個別の知識に留めず、空間的な条件に目を向けさせ、実感を伴った理解へとつなげる授業デザインが考えられる。

通し 番号	解答 形式	観点		問題の内容	出題のねらい	県平均正 答率(%)	レベル別正答率(%)				
		知	思				1	2	3	4	5
25	選択	○		物のとけかた	水溶液は均一になることを理解している。	27.4	19.7	25.9	28.1	34.1	41.8

多くの児童が「底に色が沈殿する」という③の誤答を選んだ要因として、第5学年「物のとけ方」における「液体の均一性」の理解が、実感を伴った知識として定着していないことが考えられる。日常生活における「絵具や粉末スプーの溶け残り（沈殿）」という既有経験からの直感的な思い込み（誤概念・素朴概念）を、実験による科学的な事実（完全に溶ければ時間が経っても一様であること）によって上書き・変容できていなかったと考えられる。「実感を伴った理解」を図るため、単に「溶けた」と結論付けるだけでなく、事前に予想し・立てた仮説を根底に置きながら、数日放置した水溶液を観察し、「時間が経っても一様である」事実を確かめる場を設定する。また、ICTによる粒子モデルのシミュレーションを活用し、目に見えない「溶質が全体に拡散して存在している状態」を視覚的に捉えさせ、生活経験と科学的な概念を結び付ける振り返りを重視した授業展開も考えられる。

通し 番号	解答 形式	観点		問題の内容	出題のねらい	県平均正 答率(%)	レベル別正答率(%)				
		知	思				1	2	3	4	5
30	選択		○	流れる水のはたらき	川の写真から、川の流れている場所を指摘できる。	37.1	8.3	21.2	55.4	62.4	83.6

第5学年「流れる水のはたらき」において、「川の傾き・流速」と「河原や石の様子」の特徴を、単なる断片的な文脈として覚えていた可能性が考えられる。写真から得られる視覚情報と、文章に示された記述（流速や川幅など）を相互に関連付け、既習の「浸食・運搬・堆積」のはたらきが場所ごとにどう作用しているかを、総合的に推論して判断する力が十分に育まれていなかったと考えられる。「自然の事物・現象を科学的に問題解決する能力」の育成に向け、多様な情報を関係付ける場を設定し、モデル実験を行う際、単に現象を見るだけでなく、実験時の流速や地形の変化を言葉で「記述」させ、実際の河川の写真や映像のデータと対比させるような授業のように「現象・記述・目の前の体験」を往還し、根拠を基に場所を推定・議論する活動を取り入れることも考えられる。

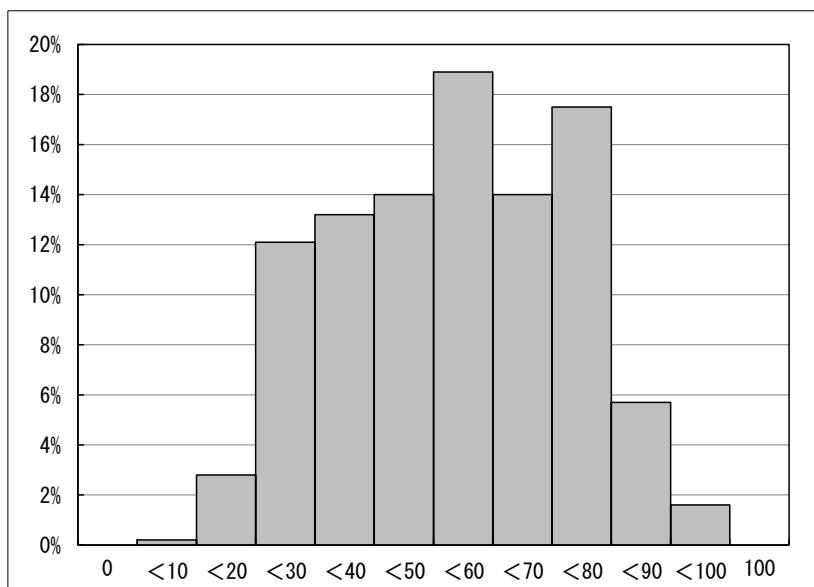
令和8年度教育課程実施状況調査の結果分析 中学校第3学年・社会

実施生徒数（人）	設問数（問）	県平均正答率（％）	推定全国値（％）	全国との差（ポイント）
577	34	53.1	57.7	-4.6

※推定全国値とは、事前の調査による様々な指標値の結果を基に推定した正答率を示しています。

		県平均正答率（％）	推定全国値（％）	全国との差（ポイント）
領域	地理	55.2	59.3	-4.1
	歴史	51.0	56.1	-5.1
観点	知識・技能	59.1	63.2	-4.1
	思考・判断・表現	42.0	47.6	-5.6
解答形式	選択式	54.2	58.9	-4.7
	短答式	49.7	53.5	-3.8
	記述式	51.6	57.4	-5.8

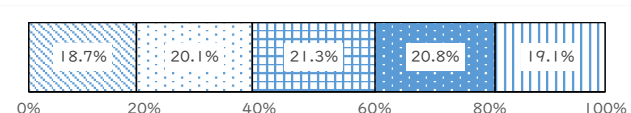
正答率分布グラフ（横軸：正答数 縦軸：割合）



正答率集計値

正答率（％）	生徒数（人）	割合（％）
100	0	0.0
<100	9	1.6
<90	33	5.7
<80	101	17.5
<70	81	14.0
<60	109	18.9
<50	81	14.0
<40	76	13.2
<30	70	12.1
<20	16	2.8
<10	1	0.2
0	0	0.0
計	577	100

レベル別人数比のグラフ



レベル別人数比（実施生徒数に対する割合）

	1	2	3	4	5
社会	18.7%	20.1%	21.3%	20.8%	19.1%

※教科ごとの結果に応じてレベル1～レベル5に該当する生徒の人数割合を表しています。

設問別正答率					問題の内容	出題のねらい	県平均正答率（％）	推定全国値（％）	全国との差（ポイント）
通し番号	解答形式	観点	領域						
		知	思	地	歴				
1	選択	○		○		扇状地を理解している。	73.1	76.3	-3.2
2	選択	○		○		フォッサマグナの位置を理解している。	67.1	67.3	-0.2
3	選択		○	○		日本の主な発電所の分布について、資料をもとに考察している。	48.9	50.2	-1.3
4	選択		○	○		日本の気候区分について、各地の気温と降水量をもとに考察している。	43.8	49.7	-5.9

5	短答	○		○	日本の地域的特色と地域区分	日本の人口ピラミッドの変化について理解している。	79.7	81.4	-1.7
6	選択	○		○		日本の農業について、各地の主な生産物を理解している。	53.0	77.0	-24.0
7	選択		○	○	日本の諸地域	日本の各県の統計について、資料をもとに考察している。	43.3	54.9	-11.6
8	短答	○		○		阪神工業地帯を理解している。	59.6	60.3	-0.7
9	選択		○	○		日本の貿易について、複数の資料をもとに考察している。	45.4	46.7	-1.3
10	短答	○		○		世界や日本の米の生産について、資料を読み取っている。	37.4	45.1	-7.7
11	選択	○		○	地域調査の手法	地形図を読み取っている。	79.7	80.3	-0.6
12	選択	○		○		地形図の縮尺について理解している。	37.3	46.7	-9.4
13	短答	○		○		日本の地域構成や日本の諸地域に関する理解をもとに、地形図中の地域の、他地域との結び付きについて読み取っている。	69.5	72.5	-3.0
14	選択	○		○	ヨーロッパ人との出会いと全国統一	豊臣秀吉の兵農分離政策について理解している。	78.7	82.8	-4.1
15	選択		○	○		楽市楽座の影響について考察している。	45.8	56.5	-10.7
16	選択	○		○		千利休について理解している。	78.9	82.0	-3.1
17	選択		○	○		安土桃山時代のキリスト教の広がりに関する資料について考察している。	28.4	28.9	-0.5
18	選択	○		○	江戸時代	武家諸法度の資料から、江戸幕府が行った大名統制を読み取っている。	37.8	46.9	-9.1
19	選択	○		○		鎖国下での対外関係の内容について、関連諸国と関係付けて理解している。	50.6	60.9	-10.3
20	選択	○		○		江戸時代の産業について、その特色を理解している。	61.9	63.4	-1.5
21	短答	○		○		株仲間について理解している。	42.5	41.1	1.4
22	選択	○		○		元禄文化について理解している。	42.5	49.9	-7.4
23	選択	○		○		江戸時代の大阪の様子について理解している。	73.8	74.1	-0.3
24	選択	○		○	明治時代	殖産興業政策について理解している。	55.1	66.9	-11.8
25	選択		○	○		文明開化のもとで生まれた思想に関する資料をもとに考察している。	62.7	66.0	-3.3
26	選択	○		○		樺太・千島交換条約で確定した領土について理解している。	48.7	52.3	-3.6
27	記述		○	○	日本の諸地域	中部地方における、自然環境をうまく利用した農業について考察し、表現している。	56.2	59.7	-3.5
28	記述		○	○	江戸時代	江戸幕府が、資料のような法令を百姓に出した背景について考察し、表現している。	47.0	55.1	-8.1
29	短答		○	○	明治時代	明治時代初期の政府の特色について、資料をもとに考察し、表現している。	23.2	31.0	-7.8
30	選択	○		○	日本の地域的特色と地域区分	三角州について理解している。	38.0	30.8	7.2
31	選択	○		○		日本の地形に関連する自然災害について理解している。	70.4	66.6	3.8
32	選択		○	○	江戸時代	江戸幕府の成立後の様子について、資料をもとに考察している。	23.4	29.5	-6.1
33	選択	○		○		江戸幕府と藩による支配が確立したことについて、資料を読み取っている。	65.9	66.7	-0.8
34	短答		○	○	日本の地域的特色と地域区分	地域区分について、資料をもとに考察し、表現している。	35.7	42.8	-7.1

◎観点及び領域の表記の意味は下記のとおりです。（次ページも同様）

【観点】知…知識・技能 思…思考・判断・表現

【領域】地…地理 歴…歴史

学習指導に当たって

※「レベル別正答率」とは、教科ごとの結果に応じた1～5のレベルに所属する集団ごとの平均正答率を算出したものです。（「レベル別人数比」は、前ページを参照）

【よくできている設問】

通し 番号	解答 形式	観点		問題の内容	出題のねらい	県平均正 答率(%)	レベル別正答率(%)				
		知	思				1	2	3	4	5
5	短答	○		日本の地域的特色と地域区分	日本の人口ピラミッドの変化について理解している。	79.7	51.9	76.7	83.7	90.8	93.6

日本の年代ごとの人口ピラミッドの変化について理解できている生徒が多い。実際の授業においては、少子高齢化等の課題を取り扱う過程の中で人口分布図や人口ピラミッドを読み取る等の作業があることが考えられる。

通し 番号	解答 形式	観点		問題の内容	出題のねらい	県平均正 答率(%)	レベル別正答率(%)				
		知	思				1	2	3	4	5
16	選択	○		ヨーロッパ人との出会いと全国統一	千利休について理解している。	78.9	39.8	69.0	86.2	97.5	99.1

千利休と茶の湯を関連付けて理解できている生徒が多い。実際の授業においては、「千利休」や「茶の湯」などの単語を暗記するだけでなく、安土桃山時代の文化をそれ以前までの文化との違いなどとともに取り上げる等の展開が考えられる。

【課題がある設問】

通し 番号	解答 形式	観点		問題の内容	出題のねらい	県平均正 答率(%)	レベル別正答率(%)				
		知	思				1	2	3	4	5
6	選択	○		日本の地域的特色と地域区分	日本の農業について、各地の主な生産物を理解している。	53.0	37.0	47.4	52.8	60.0	67.3

推定全国値との差が最も大きかった設問の一つである。日本の農業の特色、特に山梨県でも特産となっている果樹について、中部地方や東北地方の農業の特徴として取り扱うことはもちろん、それをそこの自然環境や交通・通信などに関する事象と関連付け、産業が地域の自然環境や交通・通信などと深い関係をもっていることについて扱いたい。それぞれの地方でなぜその農作物が特産となっているのかという理由や背景を考察し追究するような活動を、意図的に設けたい。

通し 番号	解答 形式	観点		問題の内容	出題のねらい	県平均正 答率(%)	レベル別正答率(%)				
		知	思				1	2	3	4	5
17	選択		○	ヨーロッパ人との出会いと全国統一	安土桃山時代のキリスト教の広がりに関する資料について考察している	28.4	20.4	25.9	37.4	31.7	25.5

キリスト教の扱いの推移を、時代の特色をもとに理解する必要がある。南蛮貿易を行っていた時代や織田信長の政策の中でのキリスト教に対する考え方と、豊臣秀吉が行った政策や江戸時代の政策に見られるキリスト教に対する考え方の違いを理由や背景から考え、まとめるような時間をとることで、時代の特色とともに理解し、いけるようにしたい。また、一つの地図に複数の要素を重ね合わせて表現しているような複雑な資料の読み取りについても課題が見られる。資料の読み取りの技能をしっかりと指導し、同様の資料を生徒自身で読み解くことができるよう支援するような場面を、分野問わず設けたい。

通し 番号	解答 形式	観点		問題の内容	出題のねらい	県平均正 答率(%)	レベル別正答率(%)				
		知	思				1	2	3	4	5
32	選択		○	江戸時代	江戸幕府の成立後の様子について、資料をもとに考察している。	23.4	19.4	4.3	17.1	21.7	56.4

歴史的な事象や関連する語句の伝達だけでなく、「産業の発達と文化の担い手の変化」などに着目して課題（問い）を設定し、都市を中心とした経済が形成されたことに気付くことができるようにすることが考えられる。その上で、農林水産業の発達、手工業や商業の発達などの中から、地域の特色を生かした事例などを扱い、それらの背景について考察し、表現する活動を工夫して、町人文化が都市を中心に形成されたことやその背景にある人口増加や新田開発などの事象についての理解を目指すという展開が考えられる。また、それらの学習の過程の中で、学習指導要領にも示されている「社会的事象等について調べまとめる技能」の育成も意識したい。

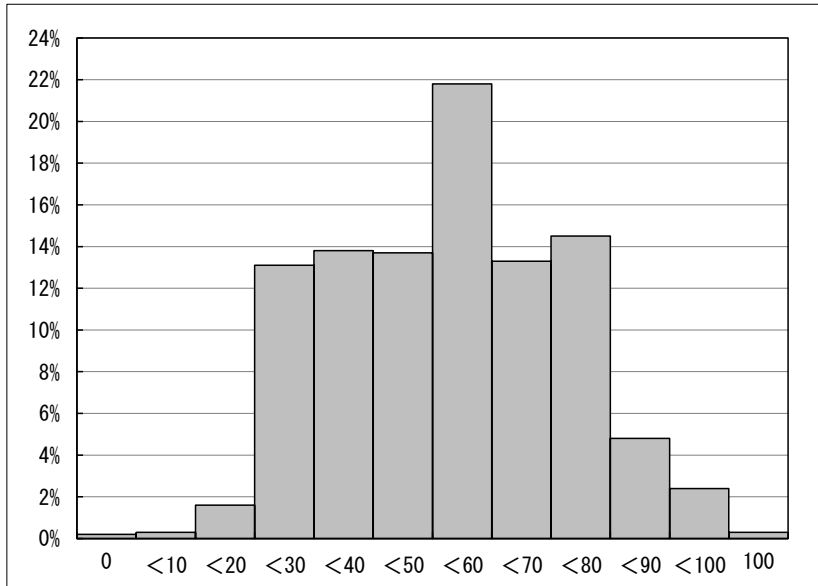
令和8年度教育課程実施状況調査の結果分析 中学校第3学年・理科

実施生徒数（人）	設問数（問）	県平均正答率（％）	推定全国値（％）	全国との差（ポイント）
578	34	52.5	58.5	-6.0

※推定全国値とは、事前の調査による様々な指標値の結果を基に推定した正答率を示しています。

		県平均正答率（％）	推定全国値（％）	全国との差（ポイント）
領域	粒子	61.2	66.4	-5.2
	生命	58.6	65.2	-6.6
	地球	38.6	45.7	-7.1
	エネルギー	50.7	56.1	-5.4
観点	知識・技能	55.8	60.6	-4.8
	思考・判断・表現	47.8	55.6	-7.8
解答形式	選択式	52.8	59.5	-6.7
	短答式	57.8	60.7	-2.9
	記述式	33.0	40.1	-7.1

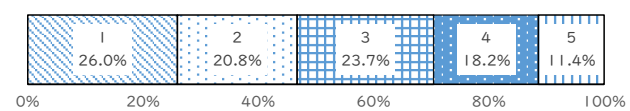
正答率分布グラフ（横軸：正答数 縦軸：割合）



正答率集計値

正答率（％）	生徒数（人）	割合（％）
100	2	0.3
<100	14	2.4
<90	28	4.8
<80	84	14.5
<70	77	13.3
<60	126	21.8
<50	79	13.7
<40	80	13.8
<30	76	13.1
<20	9	1.6
<10	2	0.3
0	1	0.2
計	578	100

レベル別人数比のグラフ



レベル別人数比（実施生徒数に対する割合）

	1	2	3	4	5
理科	26.0%	20.8%	23.7%	18.2%	11.4%

※教科ごとの結果に応じてレベル1～レベル5に該当する生徒の人数割合を表しています。

設問別正答率												
通し 番号	解 答 形 式	観 点		領 域				問題の内容	出題のねらい	県 平 均 正 答 率 (%)	推 定 全 国 値 (%)	全 国 と の 差 (ポ イ ン ト)
		知	思	粒 子	生 命	地 球	エ ネ					
1	選択	○		○				物質の成り立ち	電流を流れやすくするために、水にうすい水酸化ナトリウム水溶液を加えることを理解している。	89.4	96.3	-6.9
2	選択	○		○					電気分解装置の陽極側に集まった気体とその性質について理解している。	48.1	58.8	-10.7
3	選択		○	○					2つの実験の水の変化について指摘できる。	52.8	64.0	-11.2

4	短答	○		○				化学変化	酸化銅を還元すると銅が得られることを理解している。	79.1	68.5	10.6
5	短答	○		○				化学変化	炭素が酸化して二酸化炭素が発生することを理解している。	80.8	88.6	-7.8
6	選択			○	○			化学変化	人類の歴史上で、アルミニウムの普及が比較的遅れた理由を考えることができる。	32.9	39.6	-6.7
7	選択	○		○				化学変化と物質の質量	酸化について理解している。	81.8	85.1	-3.3
8	選択	○		○				化学変化と物質の質量	ガスバーナーの炎を正しく消すことができる。	47.8	47.4	0.4
9	選択			○	○			化学変化と物質の質量	マグネシウムと結びつく酸素の質量を推測できる。	38.4	49.2	-10.8
10	選択	○				○		生物と細胞	細胞を観察するときに使う染色液を理解している。	59.3	68.5	-9.2
11	短答	○				○		生物と細胞	組織が集まったものを、「器官」ということを理解している。	51.2	48.6	2.6
12	選択	○				○		動物のからだのつくりとはたらき	デンプンを消化する器官を理解している。	62.8	65.1	-2.3
13	選択	○				○		動物のからだのつくりとはたらき	肝臓のはたらきを理解している。	59.9	69.1	-9.2
14	記述			○		○		動物のからだのつくりとはたらき	柔毛のつくりの利点を説明できる。	49.0	57.1	-8.1
15	選択			○		○		動物のからだのつくりとはたらき	柔毛と同様に表面積を大きくしているつくりを考えるとすることができる。	76.5	83.5	-7.0
16	選択			○			○	気象の観測	2つの物体を重ねて置いたときに加わる圧力を求める式をつくることことができる。	28.7	35.2	-6.5
17	選択			○			○	気象の観測	身近に見られる現象のうち、圧力を小さくする工夫をしているものを考えることができる。	53.3	57.4	-4.1
18	選択	○					○	気象の観測	気温と飽和水蒸気量の表から、湿度を求めることができる。	41.3	51.5	-10.2
19	選択			○			○	気象の観測	気温が同じで露点が変わったのは、湿度が変わったためであることを指摘できる。	44.8	50.5	-5.7
20	選択	○					○	前線の通過と天気の変化	温暖前線が通過するときの気象の変化について理解している。	33.9	51.9	-18.0
21	選択	○					○	前線の通過と天気の変化	前線付近の断面のようすについて理解している。	42.2	41.4	0.8
22	選択	○					○	日本の気象	ユーラシア大陸から太平洋に向かって季節風がふく理由を理解している。	22.5	34.2	-11.7
23	選択	○					○	日本の気象	日本の特徴的な気象と海洋との関わりについて理解している。	41.9	43.3	-1.4
24	選択	○					○	電流の性質	電流計の示す値を読みとることができる。	77.7	78.8	-1.1
25	選択	○					○	電流の性質	電流と電圧の測定の結果から、電熱線の抵抗を求めることができる。	61.6	64.4	-2.8
26	記述			○			○	電流の性質	家庭内の配線は並列つなぎであることがわかり、そのようになっている利点を説明できる。	17.0	23.0	-6.0
27	選択	○					○	電流と磁界	電流を流した導線のまわりにできる磁界の向きを理解している。	45.0	52.5	-7.5
28	選択			○			○	電流と磁界	誘導電流の向きと大きさを変えることができる。	28.2	44.6	-16.4
29	短答	○					○	電流と磁界	コイルの中の磁界が変化すると、コイルに電圧が生じる現象を、「電磁誘導」ということを理解している。	25.3	35.3	-10.0
30	選択			○			○	電流と磁界	電流が磁界から受ける力の向きを逆にする方法を考えるとすることができる。	73.0	70.9	2.1
31	選択			○			○	電流の正体	実験の結果から、電子の流れる向きを指摘できる。	64.7	73.4	-8.7
32	短答	○					○	電流の正体	電極から出た目に見えない粒子が電子であることを理解している。	63.7	62.3	1.4
33	選択			○		○		植物のからだのつくりとはたらき	対照実験を行う理由を考えるとすることができる。	63.3	69.3	-6.0
34	短答			○		○		植物のからだのつくりとはたらき	2つの実験の結果から、ノムラモミジの葉について考察できる。	46.9	60.6	-13.7

◎観点及び領域の表記の意味は下記のとおりです。（次ページも同様）

【観点】知…知識・技能 思…思考・判断・表現

【領域】粒子…粒子 生命…生命 地球…地球 エネ…エネルギー

学習指導に当たって

※「レベル別正答率」とは、教科ごとの結果に応じた1～5のレベルに所属する集団ごとの平均正答率を算出したものです。（「レベル別人数比」は、前々ページを参照）

【よくできている設問】

通し 番号	解答 形式	観点		問題の内容	出題のねらい	県平均正 答率(%)	レベル別正答率(%)				
		知	思				1	2	3	4	5
1	選択	○		物質の成り立ち	電流を流れやすくするために、水にうすい水酸化ナトリウム水溶液を加えることを理解している。	89.4	67.3	95.0	96.4	99.0	100.0

水の電気分解の実験にうすい水酸化ナトリウム水溶液を用いる理由を理解できている。正答率が高い要因は、原子・分子の考え方について、電気分解の実験から実体験として理解している生徒が多いことが考えられる。

通し 番号	解答 形式	観点		問題の内容	出題のねらい	県平均正 答率(%)	レベル別正答率(%)				
		知	思				1	2	3	4	5
5	短答	○		化学変化	炭素が酸化して二酸化炭素が発生することを理解している。	80.8	54.7	81.7	90.5	93.3	98.5

化学変化で、酸化銅を炭素で還元する実験である。炭素は酸化して二酸化炭素になることを理解できている生徒が多く見られた。実験から考察を行う学習経験の中で理解している生徒が多いことが考えられる。

【課題がある設問】

通し 番号	解答 形式	観点		問題の内容	出題のねらい	県平均正 答率(%)	レベル別正答率(%)				
		知	思				1	2	3	4	5
22	選択	○		日本の気象	ユーラシア大陸から太平洋に向かって季節風がふく理由を理解している。	22.5	12.7	8.3	24.8	30.5	53.0

ユーラシア大陸から日本海を渡り、日本列島までの季節風についての問題である。冬の季節の特徴であるシベリア気団が高気圧で冷たいことを理解している必要があるが、温度が高いと高気圧、温度が低いと低気圧と考えて誤答となっている状況が見られた。海陸風の理解も課題と考えられる。以上のことから、陸（砂）と海水（水）を同時に温めて冷やす実験から空気の移動が生じる仕組み（気圧の高低、下降気流・上昇気流）を考えさせ、実際の大陸間の空気の移動をイメージできるようにし、気象現象の理解へとつなげるよう工夫することが大切である。

通し 番号	解答 形式	観点		問題の内容	出題のねらい	県平均正 答率(%)	レベル別正答率(%)				
		知	思				1	2	3	4	5
26	記述		○	電流の性質	家庭内の配線は並列つながりであることがわかり、そのようになっている利点を説明できる。	17.0	2.7	9.2	18.2	29.5	40.9

電流の性質に関する並列回路と家庭のコンセントを関連させた問題である。この問題では解答の中に「電圧が一定であること」または「一部の電気器具の取り外しを行っても他の電気器具に影響がないかを正答の基準としていたこと」を入れなければならないところでの誤答や、電圧を「電気」「電流」と表現している誤答が多く見られた。適切な表現が課題となるため、簡単な並列回路における電流や電圧の規則性を、家庭や学校、送電システムといった日常生活や身の回りの社会環境と関連付けることで理解できるよう、観察や実験を行うことを通して、思考力、判断力、表現力等を育成する学習活動が考えられる。

通し 番号	解答 形式	観点		問題の内容	出題のねらい	県平均正 答率(%)	レベル別正答率(%)				
		知	思				1	2	3	4	5
29	短答	○		電流と磁界	コイルの中の磁界が変化すると、コイルに電圧が生じる現象を、「電磁誘導」ということを理解している。	25.3	3.3	5.0	20.4	60.0	66.7

コイルに棒磁石を出し入れして電圧が生じる現象である「電磁誘導」を問う問題である。電磁誘導によって流れる電流である「誘導電流」という誤答が多かった。発電機などの身近なものを使って、電流と磁界に関する現象と、現象によって流れる電流の正体が理解できるように、学習活動を工夫する必要があると考えられる。